

「北」と「インスタ映え」「忖度」

浅野^{よし}介^{ひろ}敬(良裕)

今年の漢字に「北」が選ばれました。主に北朝鮮問題に対する関心から選ばれたものだと思います。1945年の終戦以降70数年平和だったのが、ここにきて戦争の危機を感じていることでしょうか。江戸時代の平和な時代を経て、明治維新以降の70数年は、ずっと戦争の時代でした。戦後の1950年から53年にかけての朝鮮戦争では、身近な戦争であったにもかかわらず、戦争特需で経済は発展し、戦争の脅威というよりも経済的利益を享受していたのかもしれませんが。しかしこの時に警察予備隊ができ、これがその後の54年に自衛隊になっていきます。

平和憲法、経済優先、自衛隊、日米同盟といった戦後の国際関係の枠組みがこの朝鮮戦争を契機に決まったのかもしれませんが。しかしながらこの枠組みの前提条件が北朝鮮のミサイルや核兵器等で崩れてきています。

1950年当時は朝鮮半島での戦争は対岸の火事のように、日本ではあまり危険を感じなかったでしょうが、これから戦争が起これば、大きな(壊滅的)被害を受けるのは、北朝鮮、韓国、日本になるでしょう。核兵器を積んだミサイルが飛んでくる、また通常兵器でも稼動している原発が攻撃されれば核兵器以上の被害になる可能性があります。

諸外国では、原発は軍隊が守っているようですが日本では民間の警備会社です。また世界で北の他にはアメリカとロシアしか持っていない電磁波爆弾が上空で炸裂すれば、コンピューター関係、電子機器は全て使えなくなります。現在では車や電気製品等殆どは電子装置により作動しています。そうなれば現在の日常生活は壊滅的な打撃を受け、回復するのに数十年かかると言われています。

これらは北朝鮮の問題というだけでなく、中東問題も含め、アメリカ、中国、ロシア等も含めた国際社会全体の変化の問題として捉える必要があります。

他方、今年の流行語大賞には「インスタ映え」と「忖度」が選ばれました。こちらは本質的な問題を表すというよりは、写真写りや権力に迎合する等、表面的で問題を隠したり、先送りするといった言葉です。皮肉をこめて言っているのでしょうか、無力感や絶望感が感じられないでしょうか。

これらの漢字・言葉を合わせて考えると、世界システムの枠組みの本質的な変化への反応と、これらの問題・リスクに対処できず、見ようとしなかったり、先送りしているという日本の現状が見えてくるようです。

もともと日本人は、自ら自分を変えることが不得意で、外圧によって変わって来ました。明治維新や戦後の改革に見られるように。

太平洋戦争の前に、日本は国際的に孤立し、国際連盟から脱退し、またA B C D包囲網により禁輸等の貿易規制を受けたのは、現在の北朝鮮の状況に似ています。しかしながら核兵器やミサイル、電子社会等以前とはまったく違った状況もあります。技術は格段に進歩して来ましたが、それらを使いこなすはずの心はあまり進歩していないようです。

今年は他にも企業の不祥事や、自然災害のリスク等問題が表面化してきた年でしたが、来年はそれらの問題解決に、現実的な対応を迫られる年になるのではないのでしょうか。